

第4回 在宅医療推進委員会・記録

日 時：平成24年2月22日（水）午後7時30分～午後9時15分

場 所：鳥取県西部医師会館 1階 会議室1

出席者：野坂会長、飛田副会長、寶意理事、安達常任理事、藤瀬参与、面谷参与、

下山先生、田辺先生、佐伯先生

山陰労災病院 神戸貴雅先生

米子医療センター 松永佳子先生、山根成之先生

博愛病院 楠本智章先生、済生会境港総合病院 佐々木祐一郎先生

米子保健所 大城陽子氏

欠席者：細田理事、小林理事、吹野参与、越智参与、松野参与、都田参与、鳥羽先生

福田先生、石井先生、三上先生、豊田先生

【協議事項】

◆「(仮) 望まれた在宅医療・看取りに定めるための実施事業と概要について」

1. 医 師

①実態調査

②サポート事業

- ・在宅医療サポート
- ・在宅看取りサポート

③病診連携

- ・前方支援
- ・後方支援

④研究会等

- ・研修会
- ・講演会

⑤多職種連携

2. 住 民

①意識調査

②啓発事業

- ・講演会
- ・フォーラム
- ・冊子配布

◆その他

●協議事項はあげていたが、参加者が在宅医療、看取りについての意見や思いを発言し、意見交換を行った。

- ・2025年頃には全患者数が今の2倍になる時がくる。病院勤務医は最初、患者を診ると最後まで診るものだという思いがあるが、(講習会が必要?)それでは無理なときがくる。
- ・急性期病院は高齢者を看取ることが多い。少し疲弊気味。
- ・他の県では、県が事業所ごとに(病院・診療所等)アンケートや分析を行っている。
- ・2年の間に、西部でも勤務医アンケートを行うといいのではないか。
- ・「最後は病院で」という考えの患者家族が多い。住民への啓発が必要ではないか。
- ・(県)年度内に、麻薬調剤の処方ができる薬局をまとめた書類ができる。
- ・なんぶ幸朋園では、入居時に最初アンケートがあり、「どう患者を看取るか?」を聞かれる。
- ・介護保険が4月から変わる。看取ると点数が付くようになる。
- ・前方支援・・・病院の先生 → 診療所にかえすこと。
後方支援・・・診療所の先生が在宅で診ている時に、病院の先生に診てもらいたい時がある。サポートしてほしい。
病院の先生に教えてもらうことがスキルアップにもなる。
- ・博愛病院では、ケアカンファレンスをケアマネさんが患者の自宅で行っている。病院を出て、患者さんの自宅を見ながらの方がいいが、病院の先生にはむずかしい。
- ・「グループホーム」 → 病気ではない、体は健康だが、ぼけた人。
「デイサービス」 → 医療が入りにくい。看取りが近づくと家に帰される。
- ・在宅や訪問看護で患者を診ていても、いざ患者が急変すると、家族や施設職員が動揺して救急車を呼んでしまうことがある。(救急車を呼ぶと、警察→解剖となる)
- ・ターミナル加算、看取り加算の算定の確認。
- ・診療所の先生へのアンケートの後、住民へのアンケートを行う。
- ・アンケート(案)を見てもらい、メーリングリストでアンケートの意見を返してほしい。
- ・例えば、「Q. 連携医師としてサポート医になれますか? Yes or No」というような単刀直入でパッと答えやすい質問の方がいいのでは? など意見あり。
- ・メーリングリストを至急作る。

◎次回の予定 3月に1回か2回行う予定。

後日、メーリングリストで日程調整を行う。

